



ロサンゼルスのは通り
ブルースとミッコのスシバーは、今日も大繁盛。
ブルースが言った。

「やっとこれで自分の人生を
憎まずにすみそうだよ ミッコ」

シネマ100
サンダンス国際賞
受賞作品

Mr.Pの

ダンシングスシバー

田代廣孝監督作品

フランク・マクレイ/ナンシー・クワン/デボラ・クリストファーソン/サイ・リチャードソン/ロイド・キノ
プロデューサー：スンミン・パーク 監督・脚本：田代 廣孝 共同脚本：田代 智子 撮影：サーシャ・レンドリック
音楽：クリストファー・ホールデン 編集：ライアン・ゴールド 美術：アンドレ・ソワーズ

DOLBY SR

シネバレー/インターナショナルプレイハウス/日本フィルムディベロップメントアンドファイナンス提携作品 <特別協賛>パナソニックデジタルコンテンツ
<助成>芸術文化振興基金助成事業 <国際交流基金 <後援>サンダンスインスティテュート/NHK/NHKエンタープライズ21/株 西友/キネマ旬報社 <配給>シネバレー

時を越え、国を越え、今、感動のラブストーリーが幕を開ける

Mr.Pのダンシングスシバー

★国籍や人種を越えて、人生とはこういうものだという強い実感がこの映画にはある。ゆっくりと、そして深く見る者の心を揺り動かしてくれる秀作だ。 —佐藤忠男／映画評論家

★変わらぬ映画に対する眼差し故、新作もまた愛情あふれる作品となって現れた。原点を探る道行は、我々にかりそめではない勇氣と希望をあたえてくれる。 —佐野史郎／俳優

★この映画の成功は、役者を協力者というよりは共に映画を創る“共謀者”にしたことにある。 —ジョン・ランディス／映画監督

■ Story

1995年ロサンゼルス。ベトナム戦争が終結して20年。ベトナム帰還兵のブルース(フランク・マクレイ)は、黒人ながら日本人の経営する寿司屋の看板シェフになっていた。彼の妻、日本人女性のミツコ(ナンシー・クワン)は、ベニスビーチのTシャツショップで働いていた。

そんなある日、ブルースは働いていた寿司屋とのいさかから自分の店を持つと決心する。その店名こそ“Mr.Pのダンシングスシバー”。当初、反対していたミツコだが、ブルースの情熱に動かされ資金繰りに奔走。そのかいあって“Mr.Pのダンシングスシバー”は開店し、予想以上に大繁盛。

ところがブルースは、ベトナム戦争の悪夢に悩まされていた。

ベトナムに行くことがブルースを救うことだと信じるミツコだったが……。



Mr. P's
Dancing Sushi Bar

1998年日本・アメリカ映画／90分／35mm／カラー／ドルビーSR／
日本語字幕付 宣材デザイン／吉澤 優

配給／シネパレエ TEL&FAX 03(3565)0860

■ 伝説の復活

主役のフランク・マクレイはロバート・ゼメキス、スティーブン・スピルバーグ監督作品などの常連スター。「USED CAR」「1941」「ロッキーII」「ノーマレイ」などハリウッド作品にはかかせないオールラウンドプレイヤー。彼は本作の出演理由をこう語る。“僕の兄貴がベトナムで死んでいるんです。脚本を読んだ時、長い間閉じ込めていた心の奥底の悲しみが開放され、癒されるような気がしました。”

その相手役には伝説のオリエンタルビューティー、ナンシー・クワン。十代で大プロデューサーのレイ・スタークに見出され、「スージー・ウォンの世界」でハリウッドメジャーで主演デビューを飾る。近年では、CMやTVのプロデューサーとしても活躍している。「Mr.Pのダンシングスシバー」の演技でみごとに伝説は復活した。

他に「カラズ」などのベテラン俳優サイ・リチャードソン、アメリカ版「ゴジラ」のロイド・キノが脇を固めている。

■ 映画新時代へ

監督は、1992年ベルリン映画祭や新人監督の登竜門、ニューヨークニューディレクターズ／ニューフィルムズで絶賛を得、フランスの日本映画ビエンナーレで銀賞を受賞した「あふれる熱い涙」の田代廣孝。

1996年制作に先立ち、この映画の脚本が映画生誕100年を記念して設立された「シネマ100サンダンス国際賞」を受賞したことで、ロバート・レッドフォードが主催するサンダンスインスティテュートの全面的バックアップを得る。そのため、従来の合作映画とは違い、監督ただ一人がアメリカのキャスト、スタッフに飛び込んでの制作を実現する。これは、日本映画界初の快挙である。しかも、ベトナム戦争後初めてアメリカのスタッフによるベトナムロケを成功させた。

まさに、国境を越えた映画新時代の到来を告げる一本である。



11月13日(土)より感動のロードショー!!

連日 1:00 2:50 4:40 6:40 11/26(金)まで (11/19(金)6:40の回休映)

特別鑑賞券1500円好評発売中!

●当日:一般1800円、大学1500円、高校1300円、中・小・シニア1000円

地下鉄中央線「九条駅」6番出口徒歩2分

シネ・ヌーヴォ
TEL.06-6582-1416